

令和7年度 自 己 評 価 表

新居浜特別支援学校みしま分校
学校番号(54)

教育方針	1 生きる力を身に付けるために、学ぶ意欲、豊かな心、健やかな体をバランスよく育む。 2 「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「意欲・人間性」等の資質・能力を育成するために、主体的・対話的で深い学びを実践する。 3 一人一人がもつ可能性を伸ばすために、障がいの状態や発達等に応じた指導・支援の充実を図る。 4 自立と社会参加を実現するために、一人一人の学びの連続性の確保に努める。			重点目標	1 児童生徒にとって行きたい学校、楽しい学校を目指す。 2 お互いを認め、協力して活動し、自立を目指す児童生徒を育てる。 3 児童生徒一人一人のニーズに応じた目標を設定し、基礎・基本の定着を図る。 4 一人一人が生き生きと活動する授業実践を目指す。 5 特別支援学校としての地域におけるセンター的機能の充実に努める。		
	領域	評価項目	具体的目標		評価	具体的目標の達成状況	改善点
学習指導	分かる・できる・考える授業の実践	○全ての授業で具体的なねらいを設定し、振り返りの機会を設け、児童生徒が「わかった」「できた」と感じる授業実践に取り組む。児童生徒が学習の見通しや課題意識をもち、主体的に学習に取り組む授業を行う。 ○生活単元学習内容表をアップデートし、年間指導計画モデル案として活用し、各教科等の目標・内容を意識しながら、各教科のバランスや系統的な指導を意識して学習を計画・実践する。	B	○全ての授業で具体的なねらいを設定し、児童生徒一人一人の実態に応じた学習内容、支援を工夫した。ICT機器や視覚的支援を有効に活用しながら、主体的に学習に取り組めるよう工夫することが、児童生徒の達成感にもつながった。 ○小学部の生活単元学習内容表には、前年度新たに実施した単元の追加を行い、中学部の内容表には3年間の内容を網羅したものにアップデートした。内容表を活用することで、各教科の目標・内容を意識したり、当該学年が前年度までにどのような学習をしてきたのか確認したりすることができた。	○今後も学習のねらいを明確にするとともに、振り返りの方法の工夫や、質問の時間の設定をすることで、児童生徒が「わかった」「できた」と感じる授業実践に取り組む。分からないこと、解決しないことがある児童生徒が一部いたため、児童生徒自身が自己評価したり、質問をしやすいようICT機器等を効果的に活用したりしていく必要がある。 ○生活単元学習内容表の活用で教員間で差が見られるため、年間指導計画モデル案として、より活用しやすいよう工夫していく。また、各教科、自立活動との関連など各教科等のバランスや系統的な指導を意識して学習を計画・実践する。		
	教材・教具の工夫	○実践事例等の情報提供やICT・生成AIの活用に関する研修を3回以上実施し、ICT活用スキル達成度において全項目3以上の教員の割合を90%以上にする。	A	○実践事例の共有やICT・生成AIの活用をテーマとした研修を計5回実施した。授業実践や校務に直結した内容を扱い、教職員が主体的に参加できる研修となった。ICT活用スキル達成度では、全項目3以上の教員の割合は100%となり、目標を十分に達成した。	○活用の頻度としては、週に1回以上活用している教員は4割程度である。今後も、ICTを用いた教材作成や授業での具体的な活用事例を共有し、実践につなげやすい研修を通して、授業改善と教材・教具の一層の充実を図る必要がある。		
特別活動	特別活動の充実	○学校行事を通して、異年齢の児童生徒同士で役割を分担して、一人一人が主体的に参加しやすい活動を計画する。地域の人々と交流を深めたり、社会性を養ったりする。	B	○児童生徒会を中心に、挨拶運動を実施した。全校児童生徒が主体的に参加しやすいように、役員がオリジナルたすきを作成し挨拶運動を盛り上げた。各地域交流では、制作活動やレクリエーション活動を通して互いの良さを知り、交流を深めた。	○引き続き、児童生徒一人一人が、積極的に挨拶を交わし合えるよう、挨拶運動の実施方法について工夫する。地域交流の内容を精選し、より良い交流活動になるよう計画・実施していきたい。		
生徒指導	生徒指導の推進	○集団の一員であることを自覚し、約束やきまりを守り、みんなで協力し合って生活しようとする力を育てる。 全校児童生徒が主体的に挨拶運動に参加する。	B	○児童生徒が安心、安全に学校生活が送れるように、発達段階に応じた交通安全教室を実施した。校外指導では、警察官から路切や横断歩道の渡り方を指導してもらった。全校児童生徒が主体的に挨拶運動に参加できるよう、役員が挨拶運動啓発ポスターを作成し校内に掲示した。	○交通安全教室は各部で実施し、中学部では、四国中央警察署の警察官を招き、講話、校外指導を行い交通ルールやマナーについて学習した。今後も外部講師を活用し発達段階に応じた内容を計画・実施していきたい。挨拶運動では、互いに挨拶を交わし合えるようについて工夫したい。		
	人権・同和教育の充実	○授業や行事等で校内外を問わず多くの人と関わる機会を設ける。保護者の意見を取り入れながら、参加しやすい校内研修を年2回実施する。	B	○人権の花の運動では、人権擁護委員の方々に優しく声を掛けていただきながら、花の苗植えを行った。校内研修では、外部講師による講演会や市主催の研修会に保護者や教職員が多数参加し、人権問題について学んだ。	○今後も授業や各行事において、地域の方々との交流の場を計画したい。人権・同和教育研修を通して、教職員の人権意識を高めていけるよう工夫したい。引き続き、保護者の意見を取り入れながら様々なテーマを取り上げ研修回数を増やす。		
進路指導	キャリア教育の推進と充実	○キャリア教育推進連絡協議会の委員の助言を基にキャリア教育を実践する。保護者への、キャリア教育や就労支援等の情報提供、理解啓発の充実に努める。学校公開セミナーで全校児童生徒の3分の1の保護者の出席を目指す。	B	○OPTA総会でキャリア教育の説明をしたり、進路便りで取組を紹介したりした。また、進路希望調査の様式を変更して卒業後の進路を分かりやすくしたり、懇談で進路指導の手引きについて話をしたりして、情報提供、理解啓発に努めた。学校公開セミナーには15名の保護者の参加があり、3分の1を達成した。	○引き続き、「キャリア教育は学校生活全般で実践するもの」であることを教職員で共通理解し、早期からのキャリア教育を実践する。また今年度実施した情報提供・理解啓発の取組の更なる充実を図る。		
健康安全	保健教育の充実	○外部機関を活用した指導の機会を設けると共に、保健室と各学級が連携し、児童生徒が望ましい生活習慣や感染予防行動を身に付けられるようにする。	C	○学校薬剤師から指導助言をいただき、日常生活の保健指導に活かした。校内において感染症対策や望ましい生活習慣の形成のため、それぞれの発達段階に応じて指導を行った。家庭とも連携して習慣化を図り、児童生徒の健康への関心が高まった。	○学校での集団指導、個別の支援は継続するとともに、保護者へ積極的に情報提供を行い、連携を強化する。また、保健所等外部の専門機関より直接指導を受ける機会について、計画・実践を進める。		
	安全教育の充実	○様々な場面を想定した避難訓練の実施を通して、児童生徒が自ら身を守る行動を身に付けられるようにする。非常時に備えた備蓄を勧め、適宜情報発信を行う。	B	○防災避難訓練(地震・火災)、不審者対応訓練を実施し、教職員間の共通理解を図った。三島小との合同避難(大地震)訓練を実施し、その後消防署の方から話をさせていただくことで、児童生徒、教職員の身を守る行動や避難に対する意識も高まった。トイレトベーパー、カセットコンロ(ガス)やアルミシート、寝袋も備蓄品として追加配備した。	○様々な場面を想定した避難訓練や自らの身の安全を確保する訓練を繰り返し行うことで、多くの児童生徒が安全に関する正しい行動を身に付けつつある。今後も継続して予告なし訓練や日常生活の中、想定外の時間帯に訓練を実施するなど、児童生徒の安全を守る学習内容を実施する。また、備蓄品においても今以上に充実を図っていきたい。		